



2011. 7

民主党プレス民主編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町1-11-1  
電話03-3595-9988 (代表)  
press@dpj.or.jp  
http://www.dpj.or.jp

号外

福島2区版  
郡山市・二本松市  
本宮市・大玉村

子どもたちの  
未来へつなぐ。



衆議院議員

太田かずみ

がんばるぞ！福島

## 原発から再生エネルギーへの「エネルギーシフト」を

東京電力福島第一原発事故の発生から早いものでもう4ヵ月がたちました。皆様におかれましては、放射能の不安や風評被害の中で厳しい暮らしを余儀なくされていることとお察しいたし、心よりお見舞いを申し上げます。

原発の事故は、水素爆発の可能性が低下してきたこと、「循環注水冷却」が始まるなど、収束へ向け一定の前進は見られるものの、まだまだ先の見えない状態が続いています。メルトダウンした燃料がどういう状態になっているのかも不安です。新設の原発担当大臣を中心に世界の知見を集め、何としてでもまずは早期に冷温停止の状態にもっていくことが求められています。

そのような中、私たちの暮らしの中で、政策として急ぐこと、必要なことを考えてみます。

まずは被ばく対策です。文科省のデータによると、郡山市や二本松市などは、年間の積算線量が8ミリシーベルト前後とされていますが、学校ごとの調査により20ミリ前後に達するホットスポットと呼ばれる局所的に高い所も存在することが分かりました。計画的避難区域並みです。

放射線被ばくの健康への影響は、100ミリ以下では確定的な影響は出ないとされています。また、国立がん研究センターの研究では100ミリシーベルトの被ばくで、受動喫煙並みの発がんリスクにしかならないともいわれています。一方で、たとえ低線量であっても放射線を浴び続けることによる影響は決して無視できないと指摘する学者もおられます。たとえば内部被曝というのは、非常に微量な放射性元素を体に取り入れるだけで大きな被曝があり、低線量でも十分大きな影響があるということです。また、低線量が体にいいという「ホルミシス」という考え方について、私は疑問を感じましたので、国会の科学技術特別委員会で質問をしましたが、参考人の全員がホルミシスには科学的な根拠はないということで、この考えを否定しています。

要は、低線量被ばくの影響は現在の科学でははっきりしないということで、分からない場合には、常により安全側に立っていろいろな政策を考えなければなりません。とくに、放射線への感受性が強い子どもや妊婦は配慮されなければなりません。

その意味で文科省が当初、学校は「20ミリ以下なら安全」とも受け取られかねない発表をしたとき、私は耳を疑いました。法定基準である年間1ミリ以下（自然放射線と医療放射線を除く）をめざして即刻、校庭の表土を除染すべきだと、国会の委員会で訴え、文科大臣や党の幹部にも強く訴えてまいりました。また、郡山市などがいち早く表土を除去した際も、その費用は国がもつべきだと地元自治体と一緒に働きかけてきました。

文科省もやっと5月末、「学校で1ミリ以下をめざして」子どもの被ばくを低減させる、という転換を行いました。一歩前進です。表土の除去にかかった費用も国がもつとしました。しかし、私はまだ不満です。子どもたちにとっては、地域生活のトータルで年間1ミリ以下をめざさなければなりません。

## まずは早急に除染と健康調査

その意味で、通学路や公園、運動施設、側溝や家庭の庭、雨どいなどを徹底的に除染することが重要になります。私はこの2ヵ月間、「国として除染が重要であるとのメッセージを出し、国が主導してそのノウハウを公開し、注意事項を発表すべきだ」と訴えてきました。線量の高い場所では自衛隊を投入して除染すべきだと思います。また、自治体が独自に除染する場合にはその費用は当然、国がもつべきです。

子どもたちにはせめて夏休みは放射能の心配をしなくていい地域で一ヵ月ぐらいの林間学校や臨海学校を開けるよう国が調整すべきだとも提言して来ましたが、文科省も動いてくれて、今度の補正予算でやっとりフレッシュキャンプの開催が盛り込まれる方向ですが、規模が小さく、日数も少ないのが残念です。

また、子どもたちはすでに一定の被ばくをしていることが予想されます。それがどの程度なのか、ご両親の心配は察するに余りあります。正確に内部被ばくが測れるホールボディカウンターを使って全県民の健康調査を実施することを、この間、国に強く訴えてきましたが、県が主体となってそれを国が支える形で実施されることになりました。

これも当然の措置ですが、検査のペースがはっきりしません。私はとくに子ども・妊婦は優先的に、より手軽にできる尿検査もあわせて活用しながら、とにかく早く実施すべきだと思うので、今後も働きかけていきます。菅総理には、せめて除染と健康調査で最後にいい仕事をしてほしいと思います。

最後にエネルギー政策の転換について。私は、原発の事故を経験した被災地の議員として、明確に原発依存に反対します。原発の新設をしないことはもちろん、原発の廃炉を進め、徐々に原発の比率を下げていく努力をすべきだと思います。再生可能エネルギーを強力に推進し、原発依存を減らす「エネルギーシフト」をめざす国のエネルギー政策づくりに懸命に取り組んでまいります。



郡山市議選候補予定のさくらさんと酒蓋公園で放射線量の測定をする



郡山市災害対策本部にて原市長と面談



熱海町の被害について聞く



高玉鉱山の崩落現場



大玉村三ツ森貯水池の危険箇所を視察



本宮市のため池崩壊現場



浪江町副町長とマップを見る



浪江町長と面談



炊き出しに参加したシェフの皆さん



富岡町長・川内村長と面談



南相馬市長と面談



本宮市にて東大大学院教授らによる土壌調査



カゴメに県産トマトの使用を申し入れる



弁慶と牛若丸慰問コンサート



福島県農業士会の皆さんと意見交換会



衆議院災害特メンバーと県災害対策会議



富岡町・川内村の皆さんを激励



二本松市上川崎地区緊急懇談会



郡山高校の避難所



郡山市ニコニコ子ども館に避難している皆さん



JA みちのく安達齋藤組長と意見交換



二本松東和木幡地区後援会集会



総支部幹事会



牧草への放射線問題について話を聞く



畜産家のみなさんから話を聞く



安達支部拡大役員会



深谷勇吉市政報告会



岩代後援会田沢地区集会



大平地域の未来を考える集会



本宮市後援会役員会



大玉村後援会役員会



菅野寿雄市政懇談会



福島市下水道終末処理場視察



郡山商工会議所仮事務所で要望を受ける



郡山市日本化学で被災状況を聞く



J A 福島から要望を受ける



本宮市の要望を受ける



浪江町・飯館村の要望を受ける



郡山市長らが文科大臣に要望



二本松市が海江田経産大臣に要望



二本松市が細川厚労大臣に要望

### 衆議院議員 太田かずみ事務所

郡山事務所 〒963-8861 福島県郡山市鶴見坦3丁目4-2 TEL.024-927-0713 FAX.024-933-0713

二本松事務所 〒964-0915 福島県二本松市金色 406-13 TEL.0243-24-1386 FAX.0243-24-1384

国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町 2-2-1 衆議院第 1 議員会館 416 号 TEL.03-3508-7318 FAX.03-3508-3318